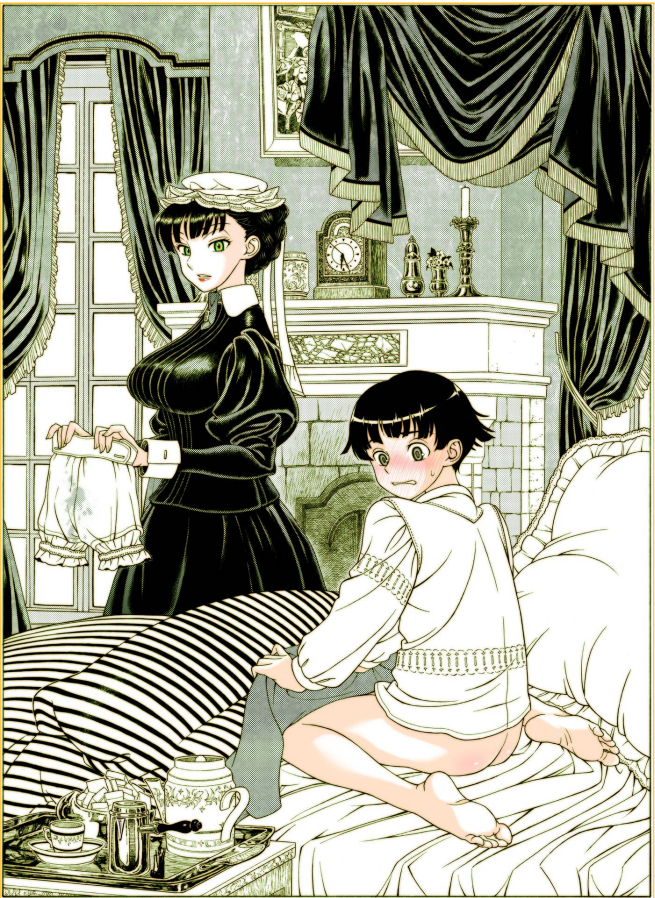


プロローグ

それは朝の出来事であった。

小柄な少年が、天蓋てんがいつきの大きなベッドの上に上体を起こし、脇わきに立つ胸の大きな女中長ハウスキーパーを不安そうに見上げている。



この短い黒髪の少年は伯爵家の令息れいぞくで、名をウィリアム・マルクという。

「ウィル坊ちゃまくらいのご年齢の男性に起きる生理現象です。なんの心配もありません」

今年で二十九歳になる黒髪の女中長トリスはそう言って、緑地に茶の混ざる淡褐色ヘイゼルの瞳を細めた。